

70歳を超えてMBA取得 77歳で博士号を取得されました。吉岡 私の知るかぎり日本ではこれまで博士号を取得した最高齢が80歳で文学博士。2番目の法学博士を取得された方に次いで私は3位に入っているようです。現在の順位は変動しているかもしれないませんが、ベスト10に入っているのは間違いない。いやワースト10というべきでしょうか(笑)。

「博士号を取得されよう」と思った理由を教えてください。吉岡 その質問は会う人に必ず聞かれます。大学院修士課程の入学面接でも全く同じ質問を面接官にされました(笑)。そのきっかけはこれまで何冊も本を書いてきた私が、あるときばたっと書けなくなってきたことになりました。なぜ書けなくなったのか悩みましたが、そのとき自分の中で結論として出たのが、今まで書いてきた以上のものを著す中身が私自身のなかにもうなくなっちゃった、ということです。要するにこれまで経営コンサルタントとして培ってきたものをすべて外に出してしまい、「すっからかん」になってしまったのです。

「多くの成功事例があるにも関わらず、それでも足りないものがあった。」吉岡 これまで私は経営に苦しんでいた数多くの中小企業の再生を指導してきました。その数おおよそ1000。個別に丁寧に入社に入り込んで、社長と一緒に会社をよくするハンズオンの手法により、わずか1年で黒字転換した会社は700にもなります。この経験は誰にも負けないと思います。と



Profile

よしおか けんしゅう
1941年生まれ。早稲田大学第一理工学部電気通信学科卒。2011年、70歳で多摩大学院に入学。14年、73歳でMBA取得。19年、77歳で多摩大学院経営情報研究科博士課程後期修了。経営情報学博士(Ph.D.)取得。「会社が赤字とわかったときに読む本」「社長の器」(PHP研究所)など著書多数。

未来事業株式会社代表取締役 吉岡憲章氏に聞く

60代から人生は一番充実してくる

「8年1000年時代」と言われる現在、高齢者がどのように社会とかわりを持って生きていくかがこれまでに以上に問われるようになってきた。「定年博士 生涯現役、挑戦をあきらめない生き方」の著者で、77歳で経営学博士号を取得した経営コンサルタントの吉岡憲章氏に、リカレント教育の重要性や人生折り返し後の気持ちの持ち方などについて聞いた。

ところがその経験一つ一つは、バラバラになった団子のようなもの。この団子を串刺しにしていって、ぱんぱんと持ち上げることによって、それらの経験をもっと上の段階まで引き上げられるのではないかと感じました。この串にあたるのが学問・理論であり、それを学ぶための大学院であり、博士課程だったのです。

「学問・理論」と実践の両方がかみあえる見直しを行います。そこで危機意識の変化和実行力、収益力の変化を読み取り、月に一度の企業訪問の際、必ず課題解決のための宿題を提示するにしています。このハンズオン型の経営支援では、早ければ1年、通常だと2年で黒字化を実現してきましたが、研究による危機意識、実行力、収益力の相関関係の分析によっても、因果関係が認められることが明らかになりました。

「学問」に金はかからない
——人生100年時代と言われるようになりまして、いくつになっても活動的にいられる秘訣はなんですか。
吉岡 残念ながら日々体力が落ちてきていくことは事実です。しかし一方で頭の方はなんと維持できています。メルマガを発行したり、講演会の講師を務めたりなどで月に20本くらいの原稿を書いていますが、それをするためにはやはり相当勉強しなきゃいけない。新聞、ビジネス誌、専門書などの読書は欠かせないようにしています。——シニア世代へのメッセージはありますか。
吉岡 大学院に行くか行かないかは別にして、学ぶことに金はいらないうことを強調したいですね。時間は平等にすべての人に1日24時間与えられていて、それをどう使うかの問題です。同期との同窓会に行くと、みんな「昔はこうだったよね」と過去の話ばかりでなければ孫の話か海外旅行の話か年金の話と相場が決まっています。そうしたときに私は「せつかに何十年蓄積したものをどどんと使っていくだけの人生でいいの。これから先のことを一生懸命考えるのがわれわれの仕事じゃないか」とけんかを吹っかけています。みんなうとうとういという顔をしています(笑)。

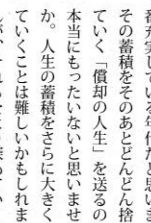
「新しいことを覚えたりするの」
近著の『定年博士 生涯現役、挑戦をあきらめない生き方』(きずな出版)



近著の『定年博士 生涯現役、挑戦をあきらめない生き方』(きずな出版)

「学問」に金はかからない
——人生100年時代と言われるようになりまして、いくつになっても活動的にいられる秘訣はなんですか。
吉岡 残念ながら日々体力が落ちてきていくことは事実です。しかし一方で頭の方はなんと維持できています。メルマガを発行したり、講演会の講師を務めたりなどで月に20本くらいの原稿を書いていますが、それをためるためにはやはり相当勉強しなきゃいけない。新聞、ビジネス誌、専門書などの読書は欠かせないようにしています。——シニア世代へのメッセージはありますか。
吉岡 大学院に行くか行かないかは別にして、学ぶことに金はいらないうことを強調したいですね。時間は平等にすべての人に1日24時間与えられていて、それをどう使うかの問題です。同期との同窓会に行くと、みんな「昔はこうだったよね」と過去の話ばかりでなければ孫の話か海外旅行の話か年金の話と相場が決まっています。そうしたときに私は「せつかに何十年蓄積したものをどどんと使っていくだけの人生でいいの。これから先のことを一生懸命考えるのがわれわれの仕事じゃないか」とけんかを吹っかけています。みんなうとうとういという顔をしています(笑)。

「新しいことを覚えたりするの」
近著の『定年博士 生涯現役、挑戦をあきらめない生き方』(きずな出版)



近著の『定年博士 生涯現役、挑戦をあきらめない生き方』(きずな出版)